令和４年度　文京区立青柳小学校

第６学年　授業改善推進プラン

	児童の実態から見える 指導方法の課題（重点項目）	具体的な授業改善策	○成果と▲課題
国語	○物語文や説明的文章の要旨を捉えられるようにする。 ○目的や意図に応じ、自分が考えたことや伝えたいことが伝わるように話すとともに、相手の意図をつかみながら聞くことができるようにする。 ○既習漢字の定着を図るとともに、構成を考えながら具体的に文章を書くことができるようにする。	・ノート指導の充実を図り、物語の登場人物の気持ちや、文章の要約を自分なりに表現させる。 ・互いの立場を考えながら話し合い、意図を明確にすることで、自分の考えを広げられるようにする。 ・話の構成を考え、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。また、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。 ・日々の漢字の学習に加え、定期的な漢字テストを行い、理解の定着を図る。 ・文章構成のメモを考えさせ、文章全体の概要を考えさせる活動を多く取り入れていく。	○重要な語句に着目して読んだり、筆者の心情や言動の根拠を文中から見付けたり、考えたりすることにより、話の中心を捉えることができた。 ▲目的や意図に応じた上で全体の構成を考え、順序立てた文章を書く力については個人差が大きく、全体としても課題が残った。 ▲文章を書き終えたり、詩や俳句などの作品ができたりしたときに、推敲しようとする態度を育てる。
社会	○複数の資料から読み取ったことを関連付けて考えることができるようにする。 ○見方・考え方を働かせながら、社会的事象について解決する力や、選択・判断する力を伸ばしていけるようにする。	・資料の特徴を捉えさせた上で、資料同士の共通することや相違点を考えさせ、資料を関連付けて読み取ることで見えてきたものを言葉に表す学習を繰り返し行う。 ・課題について、見通しをもって追究させることで、児童が見方・考え方を働かせながら学習に取り組めるようにする。また、比較・分類など様々な追究の方法を示しながら、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えることができるようにする。	○社会的事象を様々な視点から多面的に考えたり、社会的事象と自分とを関わらせたりすることで、より問題意識をもちながら学習に取り組むことができた。 ▲資料を読み取る力は全体でも伸びてきているが、資料を関連付けて読み取ることや、そこから自分で課題を見付ける力については個人差が見られた。
算数	○基礎基本となる学習理解の定着を図る。 ○課題に対する自分の考えをもたせる。 ○多様な考え方や表現の仕方や捉え方ができるようにする。	・習熟度別指導で児童の習熟に合った指導を展開する。 ・習熟度を測るテストを定期的に行い、習熟の度合いを明確にする。 ・課題把握、自力解決、練り上げ、まとめ、振り返りの指導の流れを一貫して行い、自分の考えをもたせる場面を作る。 ・問題を解くことだけを目指すのではなく友達と自分の考えを比較したり、友達の考え方を活用したりする機会を増やす。	○既習事項を用いて筋道を立てながら課題を解決したり、見方を変えて他の解決方法を考えたりするなどの、自分の考えを表現する力の伸びが見られた。 ○いくつかの考えから共通点や特徴を見付けさせることで、理解を深めることができた。 ▲習熟度別指導の中でも、習熟度に差が見られ、個に応じた指導の充実が必要であった。
理科	○自ら課題をもち、実証していくような学習のプロセスを定着させる。 ○実感を伴った学習活動を充実させる。	・予想を確かめるための実験方法を考えさせた上で、観察・実験を行い、予想と得られた結果を比較して考察する活動を繰り返し行う。 ・発展的な考察を称賛したり、学習を紹介したりする活動を多く取り入れ、学習を追究する姿勢を育む。 ・具体物を用いたり、実験を積極的に行ったりしながら、活動的な学習形態を目指す。	○問題解決の流れを明確にした授業を展開することで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。 ○実験結果の記述や考察を詳しく行い、事象を科学的に捉えようとする児童が増えた。

体育	○自己の技能の高まりを実感させる。 ○友達と学び合う学習活動を取り入れる。 ○自己に応じた課題をもち、運動への意欲を高めるようにする。	・技能ポイントを明確にし、具体的な声掛けや、示範を取り入れる。 ・運動の特性を理解するためにスモールステップで指導したり、動画で自身の体の動きを確認できるようにしたりする。 ・学習カードやタブレットを活用し、動きのポイントと自己や友達の動きを照らし合わせ、課題を見付け解決していくようにする。 ・１時間ごとに自分のめあてを考えさせ、その時間での達成の度合いを振り返り、達成感を味わわせていく。	○技能のポイントを明確にしたことで、児童が自らの言葉でこつを考えるようになった。 ○動画や学習カードを適切に使うことで、友達や自分の課題を明確にすることができた。 ○めあてを自ら設定することで、課題解決に向けてスモールステップで取り組むことができた。また、学習を振り返ることで、知識・技能や思考力、判断力が高まった。
総合	○自ら課題を見つけ調べ進めていこうとする態度を育成する。 ○学習したことを、自分の将来に役立たせようとする態度を育成する。	・児童や社会の実態を考慮し、児童の「調べたい」という意欲を高めることができるテーマを設定する。 ・調べたことを共有し、他者と協働しながら課題を解決しようとする学習活動を充実させる。 ・「自らの人生に生かす」という視点をもつことができるようワークシートを工夫する。また、学んだことを今後の自分や社会と関連付けてまとめを行う。	○自ら課題を設定したことで、その課題を意欲的に追究することができた。 ○調べたことを共有する活動を取り入れたことで、自分とは違う考え方を知り、より自身の考えを深めることができた。 ○今後の自分や社会と結び付けたまとめを行ったことで、調べて終わりではなく、社会生活に生かそうとする態度が見られた。
道徳	○価値に迫るために多様な指導法を取り入れていく。 ○他者の考えを受け止め、自分の考えを深められるようにする。	・児童が身近に感じることのできるような教材を提示、開発していく。 ・児童への「ゆさぶり」を積極的に取り入れ、自分事として話し合いが行われる授業展開にしていく。 ・自分の考えをもつとともに、さらに多面的・多角的な考えに触れられるように意見共有を行い、話し合う活動を充実させる。	○行事や学級の状況に応じ、児童の実態に合った単元や資料を臨機応変に活用したことで、児童の関心が高まり、思考の深化が見られた。また、自分の事として考え、振り返ったことを生かしていこうとする態度が見られた。 ▲話し合い活動や交流、学習形態の工夫はコロナ禍で制限があったため、十分に行うことはできなかった。
外国語	○外国語に興味、関心をもたせる。 ○積極的に他者とコミュニケーションをとれるようにする。 ○大文字及び小文字を正しく理解し、書き分けられるようにする。	・授業開始時に、warm up の時間を十分とり、歌やチャンツなどで、リズムに乗って楽しく始められるようにする。 ・ゲーム等を行い、ただ楽しむのではなく、言語の使用場面を意識して行うことができるよう、身近な場面の会話を毎時間取り入れ、繰り返し聞いたり発音したりすることで、自信をもたせていく。 ・ワークシートを活用し、自分のことや身近で簡単な基本的な表現を書く活動を取り入れる。	○発表を多く行ったことで、学習の必要性が高まり、積極的にコミュニケーションをとろうとする児童が増えた。 ○単語や基本的な文章を書く活動を毎時間取り入れたことで、正しくアルファベットを書けるようになってきた。 ▲授業に向けたＡＬＴとの打ち合わせを綿密に行い、授業内容を共に考え、明確な役割分担をもっと行う必要があった。